

教科等横断的な視点を取り入れた授業実践

社 会 科

第2学年

《教科等横断的な視点に立った資質能力の育成》

○ 学習の基盤となる資質・能力の育成について

・問題発見・解決能力の育成

本実践では、生徒が「探究的な見方・考え方」を働かせた学びを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質能力の育成を目指す。特に実社会・実生活の課題を探究し、生き方を問い続けるような総合的な学習の時間特有の物事を捉える視点や考え方を大切にしていきたい。

探究的な学習とするために、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の学習過程を設定する。江戸時代の地方の産業の発展（社会科歴史的分野）と現在の地域の現状を結び付け、地域の課題を生徒が捉えていくことから学習をスタートさせる。地域の歴史資料館や行政等から当時の産業や現在の産業の情報を集め、整理・分析し、現在の地域（実社会）の課題を探究できる指導計画を作成する。学習全体を通して、千葉県の江戸時代における発展といった歴史認識と共に、未来に向かって継続的に社会に関わろうとする将来展望・社会参画の意識を育てたい。

・情報活用能力の育成

上記①～④の学習過程は情報活用能力の育成にも効果的である。①の段階では、情報を得て課題を設定させる。②では、情報を効率的に収集する手段を選択させる。③では、情報の共通点や相違点を見つけ、関係や傾向を明らかにさせる。④では、自分の意見をまとめたり、他者に伝えたりする活動を通して、効果的な表現を工夫させることで情報活用能力を育成したい。

・言語能力の育成

「日本の文化を外国人に紹介すること」を学習活動の終末に設定することで、言語能力の育成を図りたい。このような他者に伝える活動を設定することで、情報を整理・分析し、自分の考えをまとめ、相手に伝える等の場面において、生徒の言語活動が活性化すると考えられる。更に、自分たちの学習成果について、社会に発信することによって、達成感や成就感、協働的に学び合うことの良さを実感することが期待できる。

1 単元名 「江戸時代から考える鴨川市の未来」

2 単元の目標

- 江戸時代には、鴨川市の経済的な基盤が確立され、人々の生活が大きく変化したことを理解するとともに、身近な地域に関わる資料やその他の資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 〈知識及び技能〉

○江戸と鴨川市の発展について、事象の意味や意義、身近な地域の文化の特色などを、江戸時代の産業の発展や地域文化が生まれたこと、生産技術の向上、交通の整備などに着目し、多面的・多角的に考察したり、思考したことを表現したりする力を養う。〈思考力、判断力、表現力等〉

○自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心を持ち、現代の日本や地域に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

〈学びに向かう力、人間性等〉

3 教科等横断的な視点を取り入れた授業実践について

(1) 単元で育てたい力

○鴨川市に住み続けるためにはどうしたらよいか、見通しをもって学習に取り組もうとし、振り返りながら課題を追究することができる。【社会：問題発見・解決能力】

(2) 教科等横断的な視点に立った育てたい力

○消化や呼吸についての観察、実験などをとおして、生徒が自然の事物・現象に進んで関わり、問題を見だし、見通しをもって観察・実験を行うことができる。

【理科：問題発見・解決能力、情報活用能力】

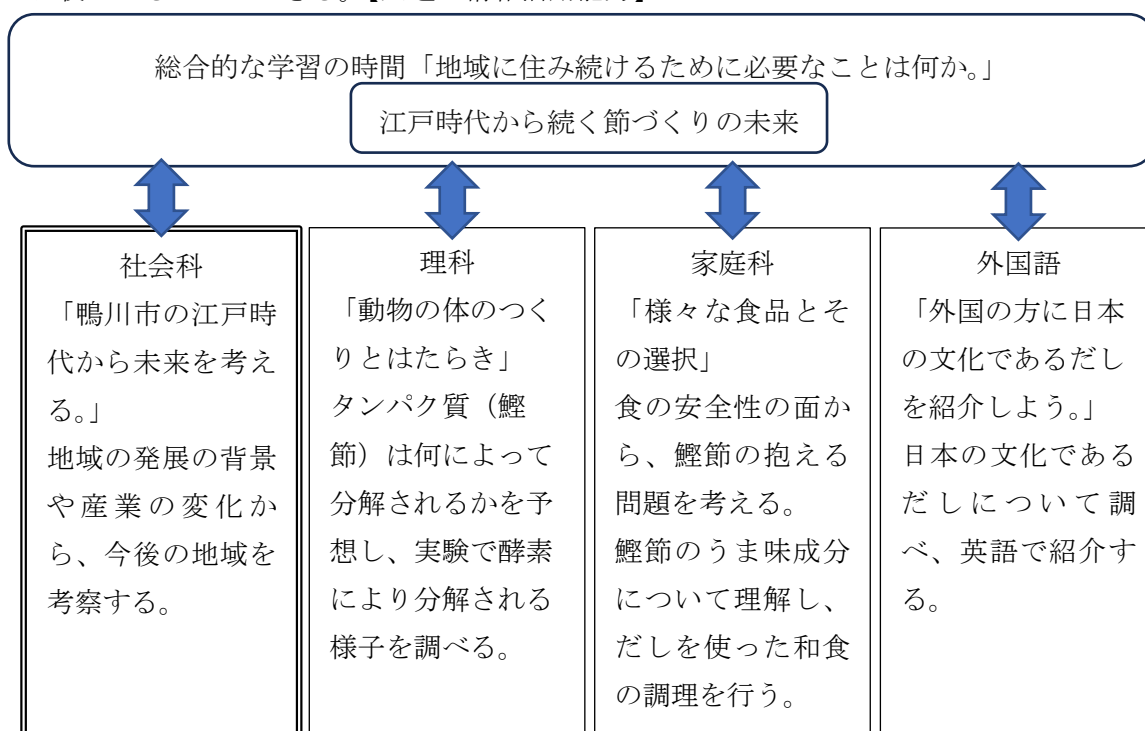
○健康・安全で豊かな食生活を考えることから、必要な栄養の特徴や健康によい食習慣、食品の選択と調理などに関する知識及び技能を身に付け、食をめぐる課題を解決しようとすることができる。【家庭科：問題発見・解決能力、情報活用能力】

○外国語が背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。【外国語：言語能力】

(3) 共通の育てたい力

○実社会や実生活の中から問いを見だし、これまでに学んできたことを生かして解決方法を考え、振り返って新たな問題発見・解決につなげていくことができる。【共通：問題発見・解決能力】

○図書資料や情報端末等を活用して情報を収集し、情報を整理・分析し、自分の考えを形成することに役立てることができる。【共通：情報活用能力】



(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。 ②江戸時代の鴨川市の様子（関西からの漁民、門前町としての発展、東廻り航路の避難港、人口増加、江戸との関係性）を基に、資料から様々な情報を読み取りまとめ、近世に千葉県各地で今につながる経済的な基盤が確立されたことを理解している。	①比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②人口増加と経済基盤の発展（変化、因果）、江戸の発展と千葉の発展（影響、因果、類似）に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の地域社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、千葉県各地の近世の特徴を表現している。	①自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心を持って、身近な地域の歴史的な特徴について、課題を主体的に追究しようとしている。 ②近世の鴨川市の人口増加について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。

4 指導計画

時	学 習 活 動 ★教科等横断的な学習活動	備考 ★教科等横断的な学習 ◎記録に残す評価 □学習状況の確認
総 1	★地域の歴史を学び、地域に住み続けるために必要なことについて考察するという探究課題を設定する。 【見いだす】【総合的な学習の時間】 【単元を貫く学習課題】「地域に住み続けるために必要なことは何か。」	★地域の歴史に関する学習から得られた情報を基に、探究課題を設定している。 【情報活用能力】
1 2	学習課題「どうして江戸時代の鴨川市にはたくさんの人が住んでいたのか。」 ○江戸時代の鴨川市に関わる資料から、本時の課題についての予想を立て、ワークシートに記述する。 【自分で取り組む】 ○江戸時代の資料から、当時の様子を読み取り、ワークシートに記入する。 【自分で取り組む】	□思考・判断・表現 地域の歴史を学ぶ理由を、地域の今後や自分、家族が住み続けることと関連付けて考察し、表現している。 ★資料から、課題との関わりがある事象について調べ、ワークシートにまとめている。 【情報活用能力】
3	学習課題「どうして鴨川に関西から漁民がきたのか。」 ○資料から関西の漁民が鴨川にやってきた理由を読み取り、ワークシートに記述する。【自分で取り組む】	□思考・判断・表現 関西からの漁民、加工技術の伝来、人口増加の理由について考察し、表現している。

		★具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報をまとめたりするなどの技能を身に付けている。 【情報活用能力】 □主体的に学習に取り組む態度 自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心を持って、身近な地域の歴史的な特徴について、課題を主体的に追究しようとしている。
4	学習課題「どうして江戸時代の鴨川市は人口が増えたのか。」 ○前時で学んだことから、江戸時代の鴨川市の人口増加の理由を自分の言葉でまとめ、学級で意見交換をし、ワークシートに記入する。【広げ深める】 ○鴨川市と江戸の人口増加の理由を比較し、考察する。学級で意見交換をし、結果をワークシートに記述する。【まとめあげる】	□知識・技能 関西からの漁民、加工技術の伝来と寺社参拝ブームを、江戸の発展、安房と江戸との距離を関連付けて理解している。
5 6	学習課題「千葉県各地と江戸の発展にはつながりがあったのか。」 ○千葉県の他地域の経済の安定と江戸の発展とのつながりを調べ、グループごとにワークシートに記述する。【自分で取り組む】	□思考・判断・表現 人口増加と経済基盤の発展（変化、因果）、江戸の発展と千葉の発展（影響、因果、類似）に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の地域社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、千葉県各地の近世の特徴を表現している。
7	学習課題「どうして千葉県各地の発展と江戸の発展にはつながりがあったのか。」 ○前時までの学習で、各班がまとめた千葉県各地の江戸時代の産業の様子を共有し、共通点や相違点をワークシートに記入する。【自分で取り組む】  ○現在の鴨川市と東京につながりがあるのかを予想し、ワークシートに記述する。【自分で取り組む】	□知識・技能 各地の諸産業の発展と江戸の発展との関係性を資料から読み取ってまとめることで、近世に千葉県各地で今につながる経済的な基盤が確立されたことを理解している。
総 2 ・ 3	学習課題「江戸時代から続く『節づくり』は、現在どうなっているのか。」（2時間扱い） ★節づくりを行っている〇〇商店（フィールドワーク）で節づくりの方法と現状を学習する。 【見いだす】【総合的な学習の時間】	★地域産業の現状を地域の経済基盤に着目して考察する。 【情報活用能力】 ★調べたことや資料から地域経済の現状や地域産業の基盤を適切に読み取っている。 【情報活用能力】

	   【フィールドワークの様子】	
8	学習課題「鴨川市の産業は、どのように変わってきたのだろうか。」 ○資料より、鴨川市の経済の中心である産業について調べ、ワークシートに記述する。 【自分で取り組む】 ○なぜ産業の内容が変わってきたのか考察する。 【広げ深める】	◎資料から地域経済の現状や地域産業の基盤を適切に読み取っている。 【情報活用能力】 ◎地域の産業の変化を理由も含めてワークシートに記述している。 【記述分析】
理 1	学習課題「唾液によりデンプンはどのような物質に分解されるのか。」 ★朝食食べてきたものを挙げ、それらを分類する。 【自分で取り組む】【理科】 ★唾液でデンプンはどのような物質に分解されるかを予想し、実験で唾液によりデンプンが分解される様子を調べる。【自分で取り組む】【理科】 ★タンパク質（鰹節）は何によって分解されるかを予想し、実験で酵素（キウイフルーツの果汁）により分解される様子を調べる。 【自分で取り組む】【理科】	★唾液によってデンプンが分解されてできる物質を、根拠を示して表現している。 【情報活用能力】 ★タンパク質は分解され、アミノ酸に分解され、吸収されることを理解する。 【情報活用能力】
家 1 ・ 2	学習課題「鰹節はどうして輸出することができないのだろうか。」（2時間扱い） ★食の安全性の面から、鰹節の抱える問題（タール分による輸出の制限）を考える。 【自分で取り組む】【家庭科】 ★鰹節のうま味成分について理解し、だしを使った和食の調理を行う。 【自分で取り組む】【家庭科】	★食品の情報を正確に読み取って判断している。 【情報活用能力】 ★おいしさとうま味の関係や調理における衛生と安全を理解し、調理をしている。 【情報活用能力】
英 1 ・ 2	学習課題「外国の方に日本の文化である『だし』を紹介しよう。」（2時間扱い） ★日本文化について書かれている教科書の文章を読み取り、ものを説明する時にどのような情報が必要になるのかを考察する。 【自分で取り組む】【外国語】 ★日本の文化である「だし」について調べ、英語で紹介する。 【広げ深める】【外国語】 ★発表に対するリアクションし、発表内容に対する質問を投げかけるように促す。 【広げ深める】【外国語】	★友人に日本文化について紹介するために、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある内容を話すとともに、友人の紹介を聞いて、感じたことや考えたことを伝え合うことができる。 【言語能力】

総 4	学習課題「漁業、水産加工業は衰退したのにどうして住み続けていくことができるのか。」 ★保護者インタビューから地域に住んでいる人が考える、住み続けている理由を理解する。 【広げ深める】【総合的な学習の時間】 ★今までの振り返り、地域に住み続けるために必要なことは何かを考える。 【まとめあげる】【総合的な学習の時間】	★江戸時代の産業と今の産業の比較を基に、住み続けるためには時代の変化に合わせた産業を作る必要性を理解している。 【問題発見・解決能力】
	学習課題「今後の鴨川市の産業はどうなるのだろうか。」 ★『鴨川市第四次五か年計画』より、鴨川市の今後の姿を考察し、ワークシートに記述する。 【自分で取り組む】【総合的な学習の時間】 ★鴨川市の将来を“発展（生徒アンケートより）”“自然を守る（生徒アンケートより）”“維持”（市の考え方）のどれがよいのかを考察し、ワークシートに理由を記述する。 【自分で取り組む】【総合的な学習の時間】 ★今後産業の衰退を止めるために、市が取り組もうとしている4つの取り組みを資料から読み取り、ワークシートに記入する。 【自分で取り組む】【総合的な学習の時間】 ①第1次産業の振興【ブランド化・高付加価値化、後継者育成】 ②ICTによる商工業の振興【ICTによる取引手段の多様化、雇用の増加、人の流れを呼び込む】 ③新しい観光【インバウンド、ICTによる情報の発信力】 ④医療福祉の振興【人材育成、CCRC（自立生活が可能ならうちに入居し、必要に応じて介護・看護・医療などのサービスを受けながら共同生活を送る共同体のこと）、地域間連携】	★鴨川市に住み続けるためにはどうしたらよいか、見通しをもって学習に取り組もうとし、振り返りながら課題を追究している。 【問題発見・解決能力】 ★鴨川市に住み続けるためにはどうしたらよいか、学習してきたことを関連付けて課題を追究している。 【情報活用能力】
総 6	学習課題「みんなや家族が地域に住み続けていくために必要なことは何か。」 ★前時に学習した市の取り組みから、最も重要だと思うものを選択し、理由をワークシートに記述する。 【広げ深める】【総合的な学習の時間】 ★これからの節づくりについて考察し、ワークシートに記述する。 【まとめあげる】【総合的な学習の時間】 ★これまでの学習から、住み続けるために必要なことは何かを考察し、ワークシートに記述する。 【まとめあげる】【総合的な学習の時間】	◎地域産業の現状、地域の経済基盤に着目して、地域の現状と相互に関連付けるなどして、今後の地域の様子を多面的多角的に考察し、住み続けるためにはどうすればよいのかを表現している。 【記述分析】

5 実践

（1）目指す生徒の姿

- ・学習の基盤となる資質・能力について

ア 情報活用能力の育成（第8時）

（ア）生徒を見取る際の主なポイント

- ・江戸時代の産業を基に消費地との結び付きや産業の衰退と人口減少に着目し、鴨川市には第一次産業の衰退と医療福祉業の発展があったことを理解しているか。

(イ) 指導と評価の実際

①第8時の授業の概要

現在の鴨川市の産業についての学習になる。事前の聞き取りから、「現在の鴨川市の産業の中心は漁業である」と全員が答えた。そして、実際の産業の状況を『鴨川市統計書』から調べた。江戸時代から続く節づくりなど水産業・水産加工業であったが、現在の漁業は漁獲高が減り、中心産業は医療・福祉、宿泊・飲食業であることが分かった。そして地理的分野での既習事項「日本の漁獲高が減っている」と関連付けて考察した。その後、「どうして産業が変わってしまったのか」について考察した。「漁獲量が減り、以前のままでは儲からない」「今の時代に求められているのは自然豊かな鴨川市（観光）」「医療福祉の需要が高い」など時代の変化に合わせて産業が変化したというまとめになった。また、鴨川市と大消費地とのつながりは変わらずに継続しているのではないかという考えが出た。理由として、休日になると都内のナンバープレートをつけた車を多く見かけていることが生徒達から挙がった。正確なデータを基にした思考とは言えないが、生徒の経験と鴨川市の産業の現状を結び付けて思考していた。

②実際の生徒の姿

○「おおむね満足できる」状況と評価した例

江戸時代と現在の産業を比較し、時代に合わせた産業に変化したことを理解している。

抽出生徒A江戸時代の産業は、漁業と観光業があった。そして今の産業は漁業が衰退して、時代に合わせて変化した。大きな水族館や大きな病院などの観光、宿泊・飲食業、医療福祉業が発展している。

抽出生徒B江戸時代の産業は漁業と観光業が盛んであったが、魚が減り、人口も少なくなってきており必要性が少なくなった。現在では医療・福祉や観光（飲食・宿泊業）が中心の産業になってきている。

○「十分満足できる」状況と評価した例

江戸時代と現在の産業を比較し、共通点（消費地とのつながり）や相違点（漁業の衰退）、日本全体の変化などから、時代に合わせた産業に変化したことを理解している。

抽出生徒C江戸時代の産業は、関西から漁師が移り住み、漁業や加工品の生産が盛んになり、人が増えた。そしてその生産物を江戸に送り、経済が安定していた。また、東廻り航路の重要な港、誕生寺の門前町として栄えていた。現在は、飲食・宿泊業（観光）と医療・福祉業が発展している。漁業の衰退や少子高齢化などから、時代の流れにあった産業に変化しているが、江戸（大都市）とのつながりがあることは変わらない。

抽出生徒D江戸時代の産業は、漁業や港、観光業が中心だったが、今は少子高齢化や魚が捕れなくなり医療福祉が増えた。他地域とのつながりは変わらず大きな病院や観光地（寺や水族館）、宿泊地などがたくさんあり、他地域からも人がたくさん来ている。医療福祉が必要とされ、時代に合った産業が変わっていった。

○「努力を要する」状況と評価した例

現在の鴨川市の産業が何か理解している。

抽出生徒E江戸時代は漁業などの第一次産業で江戸に持っていく産業を行っていたが、現在では、観光や医療福祉が行われ東京などから人に来てもらう産業が行われている。

イ 問題発見・解決能力の育成（総合的な学習の時間 第6時）

（ア） 生徒を見取る際の主なポイント

鴨川市の産業の現状、経済基盤に着目して課題を把握し、現在の市の取組と相互に関連付けるなどして、今後の鴨川市の様子を多面的・多角的に考察し、住み続けるためにはどうすれば良いのかを表現しているか。

（イ） 指導と評価の実際

①授業の概要

前時に学習した市の産業に対する取組を評価し、「鴨川市の産業はどうなっていくのが良いか」ということを各々の生徒が考えた。多くの生徒が、新しい産業を作ったり、人が増えたりするなどの「発展」の難しさを感じ、今ある産業を生かす「維持」の方向に意見が固まっていた。発展に対する投資へのリスクや今後の日本全体の人口の減少を考えると厳しいのではないかと、という意見が中心であった。今後の未来を想像する中で、「発展」や「衰退」に加え、「維持」という考え方があるということを全体でまとめた。

②実際の生徒の姿

○「おおむね満足できる」状況と評価した例

地域の現状を理解した上で今後予想される産業の衰退や人口減少の課題を把握し、地域を構想し、住み続けるにはどうしたら良いかを考え、表現している。

抽出生徒F 今後の地域の様子を考えると、どんどん人口が減っていくと思う。住み続けるためには現代の産業（医療福祉・観光）を維持して、充実した生活環境を守るために欠かさない働く場所を守る。そのために SNS での宣伝が大切になってくる。
抽出生徒G 地域の様子を考えると、何とか産業を維持したいと考える。大切なのは人が働く場所であると思う。鴨川のものをブランド化し、観光客や移住者を増やしていきたい。

○「十分満足できる」状況と評価した例

地域の現状を理解した上で今後予想される産業の衰退や人口減少の課題を把握し、市の取組と関連付け、今後の地域を構想し、住み続けるにはどうしたら良いかを考え、表現している。

抽出生徒H 現在の鴨川市の経済のほとんどが医療福祉、飲食宿泊などの産業に頼っている。今後このままだと人口は減少する一方で発展は難しい。そのため、今ある産業を生かし、働く先を維持していくのが良いと思う。そのために私たちは鴨川市の魅力を伝えたり、地域について考え続けていくことが必要であると思う。
抽出生徒I 現在鴨川市では人口が減ってきており、後継者不足など産業の問題も解消できなくて、自治体経営が困難になってしまうことが予想される。しかし、今の鴨川市には魅力的な産業があってそれを維持していくことでたくさんの人が来ると思う。これからの鴨川市は大人もそうだが、私たちが勉強して考えていかなければいけないと思った。これを通して鴨川市について考えることが楽しくなった。

○「努力を要する」状況と評価した例

自分なりに住み続けるにはどうしたら良いかを考え、表現している。

抽出生徒J 働かなければいけないので職場が必要となる。職場があれば働いて収入があるからいいと思う。今後どんどん人がいなくなっていってしまうので、鴨川市をもっと知ってもらうことが必要だと思う。

(2) 実践を終えて

《実践を終えて》

1 学習の基盤となる資質・能力育成について

探究的な学習とするための学習過程を設定した結果、現在の地域（実社会）の課題を見いだし、解決に向けて、学習を進めることができた。また、学習を経て将来展望や社会参画の意識など自己の生き方を考えるような生徒が現れたことは、大きな成果だったと言えるのではないだろうか。

教科等横断的な視点を取り入れた実践を行ったからこそ、多面的・多角的に学習問題に迫ることができた。それにより、社会科だけでは扱い切れない内容を他教科と関連付けて学習することで、生徒が各教科で身につけた資質・能力を活用する機会が生まれた。

また、教科等横断的な視点を取り入れた実践を通して資質・能力の育成を図るには、効果的な順序を検討する必要がある。その際、生徒の思考の流れが重要な視点になる。生徒の思考がスムーズにつながって学習が進むことで、理解や思考が深まり、資質・能力が育成されるものと考えられる。

本実践は『学習指導要領解説 総則編』に記載される「郷土や地域に関する教育」に沿った学習であり、江戸時代と現代を比較・関連させたことで、地域の再生・地域の維持を考えることができた。

2 教科横断的な視点に立った評価について

社会科の学習から地域の課題を見いだし、古くから続く産業である節づくりに焦点をあて、地域の未来を考えるという総合的な学習につなげた学習過程を設定した。

教科等横断的な視点を生かし、各教科で身に付けた資質・能力を十分に発揮し、改めて実社会に関わる学習において活用することができた。本実践により、各教科での学習のきっかけが生まれ意欲的に学習を進め、各教科の学習内容の意味や良さが実感することができたと考える。実践にあたり、教科担任制の中学校では、各教科の先生方とのコミュニケーションを欠かさず行わなければならない。また、指導と評価の一体化を図る上で、自分の担当教科以外の学習内容や評価規準、順序を把握したり、すり合わせたりする必要があり時間を要した。一方、その際に生まれたアイデアが新しい実践につながることもあった。様々な先生方と連携することに労力を要したが、生徒の資質・能力の育成の様子から、それに見合うだけの成果を感じられた。